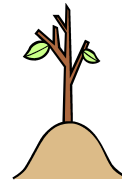


# 種時く人

令和3年9月15日  
須恵小学校便り20号



勇気を出して翼を広げることで、思わぬ場所に到達できる

東京パラリンピック開会式のメッセージ

世界各国からも絶賛された感動的な開会式で「片翼の小さな飛行機」を熱演したのは、東京都に住む中学2年生の和合由依さん。生まれつき両足と左手に障がいがあり車いすを使います。明るく行動的で、5・6年生の運動会では応援団のメンバー、中学校では生徒会の役員を務めています。彼女の言葉からは学ぶことがたくさんあります。（朝日小学生新聞9月9日号を参照）

- 「『落ちても人生の経験になるかも』と応募を決めました。」
- 「主役と聞いて、おどろいたしあせった。でも、お世話になった小学校の先生や介助の先生に、今の自分の姿を見てもらえるチャンスだから、頑張ろうと思いました。」
- 「滑走路を飛び立つ場でまっすぐに走れるように、学校で不自由な左手を使う機会を増やしたり、電動車いすを手動に切りかえて家の周りを走ったりしました。」
- 「稽古は時間も長くて大変だったけど、みんなで一つのものを創り上げることが、楽しかった。」
- 「自分の考えや思いは、はっきり伝えていいんだと思いました。」
- 「今回のパラの開会式や競技を見た子供たちに伝えたいことは、例えば横断歩道を渡っているお年寄りや体の不自由な人を見かけたら、声はかけられなくても最後まで見守ってあげる……。日常生活の中で、そんな優しさをもってもらえたらうれしいです。」



中学2年生で、この考え……。いやはや、すばらしいの一言です。

## 農地水調査はお世話になりました

今回は、コロナウイルス感染症の感染防止に配慮し、家族単位の活動を基本に実施しました。ご協力ありがとうございました。

## 運動会練習開始

結団式・応援団練習など、計画的に練習を進めています。

まだ、暑い日がありますので、一日2回の健康観察とその場その場で児童の体調をしっかりと把握・確認しながら、学習を行っています。うがい・手洗い・三密を避けるなど、ご家庭での健康管理も、どうぞよろしくお願いいたします。

